

## 農村の歩き方 教室

海外旅行ガイドの「地球の歩き方」というのがある。実際にそこを訪れた人の「体験談」が載っているから、よい。これと同じようなもので、「農村(漁村)の歩き方」という、エリア超限定の、散策ガイドのモデルをつくらうとしている。弊社の受託事業で、クライアントは熊本県。エリア超限定というのは、小さな農村集落を範囲とする、歩けば30分程の道だから。



ふるさと水源交流館



懐かしい教室で講話と説明



爺ちゃんと孫も歩いた



途中で深呼吸をしよう



頑張って歩かない



春探しに没頭するから良い

県北の菊池市にある「ふるさと水源交流館」で、農村の歩き方の実験イベントを開催した。地元住民、大学生、熊本市民など30人程が参加し、地元老人会長や行政区長(自治会長)などに案内してもらい、早春の農村集落を歩いた。お約束は、頑張って遠くまで歩かない、名所旧跡案内はしない、春の訪れを探せ、途中、3箇所まで止まって深呼吸する、の4つ。

ストレス社会では、誰も、ある程度のストレスを抱えて生きている。ストレスマネジメントの基本は、絶対量は計測できなくてもよいが、「自分が、いくらかのストレスを抱えており、それが、いくらか軽減された」ということを定期的に確かめることにある。

農村、漁村には、「ヒーリング里みち」と呼べる、癒しを与えてくれる道がある。そこで、例えば、物産館や農泊農家を起点として、個人や集落が、こうした「ヒーリング里みち」を自分で認定し、公表する仕組みをつくる。(統一認定基準を定める。そのための、今回の実験。)

これが、県内で500箇所程度できればよいと思っている。都市住民は、その中からお気に入りの「my里みち」を探し、時々訪れては、ただ歩くだけ。ただし、「コモンズ」を勘違いして、傍若無人に振舞う人が押し寄せると困るので、「農村の歩き方」ガイドが必要になる。そこには、「田んぼに石を投げ入れてはいけません」「馬の後に立つと蹴られます」「会釈をしましょう」「農泊農家などで、里みちハイカーである証明カードを首にかけてもらいましょう」などのお約束が書かれている。「ドングリを拾える場所」などの、ちょっとした体験談も載せる予定。